

上田市教育行政のあり方を考える有識者会議 市長あいさつ

平成19年1月10日(水)午後2時10分
上田駅前ビルパレオ5階会議室

本日は、新年早々にもかかわらず、上田市教育行政のあり方を考える有識者会議に御出席いただき誠にありがとうございます。

昨年3月6日に、新生上田市が発足いたしまして、10ヶ月が経過したところでありますが、これまでのところまずは順調に市政が進んでおりますことは、皆様の御理解御協力のお陰と、この場をお借りして御礼申し上げます。

私は新市の市長就任にあたり、私のマニフェストにも唄っております「健康元気都市新生上田の創造と挑戦」というスローガンを掲げ、市政経営に携わってまいりました。

市政を取巻く状況は大変厳しいものがあり、課題も山積しているところでありますが、健康元気都市「新生上田」を創造していくためには、まちづくりの主人公である「ひとづくり」の課題は大変重要であり、とりわけ人格形成に大きな影響を持つ「教育」の在り方や、次代を担う子どもたちの健全な育成に向けた取組みは、まちの・地域の将来を左右する大きな視点として捉えております。

さて、昨年を振り返りますと、「いじめ」が原因とされる自殺が社会問題となる中、教育基本法改正はじめ教育を巡り様々な全国的議論がなされたところでありました。

昨年の世相を表わす漢字として「命」が選ばれましたが、教育の現場で「命」に関わる出来事がこれほど起こることは異常であり残念な状況であり、是非ともこうしたことは失くさなければならないことであります。

こうした状況あるいは教育の現場で指摘されている課題を見ますと、教育を取り巻く諸問題は、これを預かる現場のみの取組みでは解決し得ない、国民的な取組みが必要な段階にさしかかっており、地域社会においてもまた同様であり、家庭、地域住民、そして学校、行政が一体となってこの課題に取り組んでいくことが必要で

あるものと強く感じております。

また、新生上田市の「ひとが健康で元気なまちづくり」には、地域の特色を踏まえ、地域ならではの「人づくり」の観点から、教育の現場に求められる事柄も重要であり、この事は分野を超えた住民挙げての理解と協力なしに成し得ないものであり、新たな地域創造に向け今取り組むべき課題であると考えております。

こうしたことから、上田市教育行政の現状、課題及び取り組みの方向性について、制度面、運営面の両面から幅広く議論いただく場として「上田市教育行政のあり方を考える有識者会議」を設置することとし、本日ここに14人の委員の皆様にお集まりをいただき、第1回の会議を持つ運びとなりました。

委員の皆様には、それぞれ教育あるいは人づくり、人育て・子育ての分野で御活躍されまた多くの経験と深い見識をお持ちの方々に就任をお願いし、御多忙中にも拘らず快くお引き受けをいただきました。

重ねて御礼を申し上げますとともに、活発な御議論を賜りますようお願いいたします。

先程来申し上げてまいりましたが、教育を巡る様々な課題に対しては、現状を制度面と運用面の両面から見直す必要があるのではないかと考えております。そしてまた国、県、市町村の責任と役割のあり方、市にあっては、市長部局と教育委員会の責任と役割、さらには学校、教員と保護者、地域住民の責任と役割のあり方の中で、様々な主体がそれぞれの立場でなすべきことを実行していくことが必要であります。

ちなみに、昨年12月19日には全国市長会「教育における地方分権の推進に関する研究会」において、「教育行政における市長の役割と責任の強化に関する緊急アピール」を決定し、座長(北脇浜松市長)より、教育再生会議はじめ関係方面に即日提出したところでもあります。

この有識者会議では、来年度末まで様々な角度からじっくりと御議論をいただきたいと思っておりますとともに、できればより早い時期に一定の意見集約をいただきたいと考えており、一地方として何ができ、何をなさねばならないのか、また、地方から国・

県への提言・要望の必要性も含め、新上田市の方向性を見出してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、「生活者起点」と「地域経営」の理念のもと、児童生徒を中心に考えた教育のあり方、子どものため・子どもの目線での教育改革を見据え、子どもたちを守るためあらゆる努力をするというメッセージを発しながら、地域全体が参加し、支えあう上田新時代の人づくりの創造に挑戦してまいりますので、委員の皆様のお協力をお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。